

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	男性食道癌における術前骨格筋量および骨格筋質と根治切除後の長期予後との関連性の検討			
2. 対象患者	切除可能進行食道癌と診断され、下記期間中に当科で術前化学療法後に根治手術を受けた男性患者120例			
3. 対象となる期間	2009年1月1日 ~ 2013年12月31日			
4. 実施診療科等	消化器外科			
5. 研究責任者	氏名	室谷 隆裕	所属	医学研究科 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	食道癌は早期からリンパ節転移をきたしやすく、診断時には進行癌である場合が多く、通過障害から体重減少や低栄養状態に陥りやすいとされています。また日本においては切除可能な進行食道癌に対しては術前化学療法後の根治手術が標準治療と位置付けられていますが、食道癌の手術侵襲は高く、食道癌は今なお予後不良の疾患であり続けています。サルコペニアとは加齢に伴う骨格筋量の低下および筋力、機能低下と定義されており、消化器癌を含む種々の疾患においても引き起こされ、肝胆膵領域において術後合併症の危険因子や予後不良因子となり得ることが報告されていますが、食道癌におけるサルコペニアと長期予後との関係は明らかではありません。そこで本研究により骨格筋量及び質と食道癌術後の長期予後との関連を示すことで、早期からの積極的な栄養やリハビリテーションによる介入を可能にし、治療成績の向上が期待できます。			
8. 研究の目的	2009年から2013年の期間に当科で進行食道癌の診断で術前化学療法後に食道癌根治手術を受けられた男性患者さん120例を対象として、対象患者さんの診療録より臨床所見、手術所見、術後所見などを検討し、骨格筋量および骨格筋肉質と長期予後との関連性を明らかにすることを目的とします。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	食道癌は男性に圧倒的に多いこと、また男女による体格の差、すなわち骨格筋量に差があることから男性食道癌の患者さんに限定します。診療録から病歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、各種検査所見、手術所見、術式、合併症などの手術関連情報、術後経過、予後などの情報を利用します。また、画像所見としてのCT画像を用いて骨格筋量および骨格筋肉質を計測し、サルコペニアの有無を評価し、統計学的手法を用いて長期予後との関連性を明らかにします。			
10. 個人情報の保護	患者さん個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。			
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、小野薬品工業(株)、(株)ヤクルト本社、エーザイ(株)、MSD(株)、日本イーライリリー(株)、第一三共(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。			
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 室谷隆裕			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080